



●セキ悪林地——という恐ろしいような言葉が森林業界にあるような。字は瘡悪林地と書くのがほんとうで、文字通り、松すら育たぬ瘡せた土地のことをさすという。そのセキ悪林地を改良する事業が、さる二十九年から天草で始まっている。島のやせけた林地でありながら、比較的温暖の土地柄なので、熱帯地原産の「モリシマアカシヤ」がそのピ

●：セキ悪林地をこれだけ集団植林しているのは全国的にみても天草だけ。もともと熱帯産の豆科植物で、寒さに弱い。最初、福岡県から苗木を入れたが、いまでは現地でもつくり成功している。五月頃黄色い花が咲いて、翌年六月頃採種して種をまくが、野放しでは、育ちすぎ、寒さに弱いので、芽が出て一年目に根切り枝切りなどして成長を仰成し

花咲くモリシマアカシヤ

天草の「早期育成林業」島の

●：セキ悪林地をこれだけ集団植林しているのは全国的にみても天草だけ。もともと熱帯産の豆科植物で、寒さに弱い。最初、福岡県から苗木を入れたが、いまでは現地でもつくり成功している。五月頃黄色い花が咲いて、翌年六月頃採種して種をまくが、野放しでは、育ちすぎ、寒さに弱いので、芽が出て一年目に根切り枝切りなどして成長を仰成し

●：普通林なら三十年、五十年と長い間資金を寝せねばならないが、モリシマなら短期で収入が得られるところから「早期育成林業」として零細林業家などにもうつつけのものとして、奨励されているわけだ。また、モリシマは空気中からチツソをとつて根にためる。モリシマの隣りに植えた松が成育のいいことでも証明されているほどだ。●：天草島でいま最もモリシマの成育がいいのは天草町だ。八百八十戸の林業戸数(千四百四十六戸)のうち二十五・五七ヘクタール(十萬四千本)——三十四年度末現在——が植わっている。シーズンになると東支那海の潮風に一面の黄色い花が咲きみだれ、さらにエキゾチックな情趣をただよわせているのである。

植付け後五年でこんなに成長した天草のモリシマアカシヤ

村に十一、二ヘクタールを植えたモリシマが、三十五年度には十五市町村百十ヘクタールに飛躍的にふえている。●：計画によれば三十六年三百ヘクタール、三十七年五百ヘクタールが増林されることになっており、さらに島の林野面積の十分の一に相当する五千ヘクタールを目標にしている。用途は、パルプまたは家具用だ。樹皮からはタンニンもとれる。

て木の耐久力を強めることにしている。そして植林すると六年で直径十センチ以上、十年で十五センチ以上に成長する。●：いまの計画では十年目に伐採することになっている。一ヘクタール当りの植林費から手入れ費までの経費が五万七千円、そして十年経って、〇・二七八立方(石)当り七百二十円と計算して七十二万円(一ヘクタール二七八立方)の収入があるソロバンだ。●：普通林なら三十年、五十年と長い間資金を寝せねばならないが、モリシマなら短期で収入が得られるところから「早期育成林業」として零細林業家などにもうつつけのものとして、奨励されているわけだ。また、モリシマは空気中からチツソをとつて根にためる。モリシマの隣りに植えた松が成育のいいことでも証明されているほどだ。●：天草島でいま最もモリシマの成育がいいのは天草町だ。八百八十戸の林業戸数(千四百四十六戸)のうち二十五・五七ヘクタール(十萬四千本)——三十四年度末現在——が植わっている。シーズンになると東支那海の潮風に一面の黄色い花が咲きみだれ、さらにエキゾチックな情趣をただよわせているのである。

恐ろしい日本脳炎

××××× 今年はお小児マヒの大流行で、つい日本脳炎の恐ろしさが忘れがち。

××××× 初め高熱や頭痛はきき いうから、大人もご用心。ではその予防は？

××××× だ、環境を清潔にしなければならぬ。①蚊を退治しよう 日本脳炎は蚊がうつすもの。まづ蚊をやつつけることが先決。そのためには、飛び廻っている蚊を殺すことも大切だが、水たまりや溝など、日光に長時間照らされることがないよう注意が肝心。

赤痢も流行のきざし 「手洗い」が予防のキメ手

☆☆☆☆ 赤痢は夏の伝染病の横綱。今年も本誌が出る頃は六百名を突破することだろう。ちようど昨年

☆☆☆☆ 赤痢は夏の伝染病の横綱。今年も本誌が出る頃は六百名を突破することだろう。ちようど昨年

☆☆☆☆ 赤痢は夏の伝染病の横綱。今年も本誌が出る頃は六百名を突破することだろう。ちようど昨年

菌はあなたの手にも

わけてある。ではどうするか？まず手を洗うこと。百人の手を調べる

もつと慾をいえば外出から帰つてからも手洗いを励行したいもの。ドアのハンドル、電車の吊り輪、その他すべてに菌がついていないとはいえない。また、体の抵抗力をおとろえさせないためには、暴飲暴食をつしめ、生物をさげ、腹をこわさないようにして、いつも体の調子を上々に保つておくことが何よりも大切。

夏の健康



体の弱い子供は山へ

「夏休みと子供」といえば「海水浴」を連想する程、われもわれもと海へいく。だが、いわゆる虚弱児といわれる子供まで一緒に海へいくのは注意すること。そんな子供にとっては、海は紫外線も太陽の光りも強すぎる。むしろ涼しい山へ連れていくこと。特にツベルクリン反応が今年陽性になった子供は、できるだけ海水浴や旅行、ハイキングなどはさげ、栄養をとつて体を休めること。

だから赤痢予防は、赤痢菌が口に入らないようにすればいい



このマークをねらえ

▼インスタント食品が まちに氾濫しているが、そのポリエチレンの袋をよくみると、左のようなマークがついているものがある。そのほかパンの包装紙にも、ジュースの缶詰にもついている。これは、栄養改善法で厚生大臣の許可をうけている食品で、日本人に一番欠乏しやすいカルシウムやビタミンA、B₁、B₂、Cなどを添加した「特殊栄養食品」のマーク。▼強化米とか強化麦などもこれのほか、麺類、味噌、ふりかけ、缶詰などいろいろ。夏には特にビタミン類が不足しがち。どうせ買うならこのマークのあるものを。